

再評価結果（令和4年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・技術課
担当課長名：長谷川 朋弘

事業名 一般国道8号 <small>なおえつ</small> 直江津バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 北陸地方整備局			
起終点 自：新潟県上越市大潟区犀潟 至：新潟県上越市虫生岩戸	延長 12.2km				
事業概要 国道8号直江津バイパスは、交通混雑の緩和と交通事故削減、地域開発・産業への支援、物流効率化による企業の生産性向上などを目的とした延長12.2kmのバイパス事業である。					
S41年度事業化	S42, 47年度, H9年度都市計画決定（H元, 10年度変更）	S42年度用地着手 S43年度工事着手			
全体事業費	約360億円	事業進捗率 64% （令和3年3月末時点）			
		供用済延長 2.8km（暫定2車線） 2.4km（完成2車線） 7.0km（完成4車線）			
計画交通量 16,400～32,900台／日					
費用対効果分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;"> B/C （事業全体） 1.7 （残事業） 1.1 </td> <td style="width: 40%;"> 総費用：（残事業）/（事業全体） 124/1,392億円 （事業費：92/1,239億円 維持管理費：32/153億円） </td> <td style="width: 40%;"> 総便益：（残事業）/（事業全体） 139/2,345億円 （走行時間短縮便益：119/1,914億円 走行経費減少便益：17/316億円 交通事故減少便益：3.4/116億円） </td> </tr> </table>	B/C （事業全体） 1.7 （残事業） 1.1	総費用：（残事業）/（事業全体） 124/1,392億円 （事業費：92/1,239億円 維持管理費：32/153億円）	総便益：（残事業）/（事業全体） 139/2,345億円 （走行時間短縮便益：119/1,914億円 走行経費減少便益：17/316億円 交通事故減少便益：3.4/116億円）	基準年 令和3年度
B/C （事業全体） 1.7 （残事業） 1.1	総費用：（残事業）/（事業全体） 124/1,392億円 （事業費：92/1,239億円 維持管理費：32/153億円）	総便益：（残事業）/（事業全体） 139/2,345億円 （走行時間短縮便益：119/1,914億円 走行経費減少便益：17/316億円 交通事故減少便益：3.4/116億円）			
感度分析の結果					
<table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> （事業全体） 交通量：B/C=1.5～1.9（交通量±10%） 事業費：B/C=1.7～1.7（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.7～1.7（事業期間±20%） </td> <td style="width: 50%;"> （残事業） 交通量：B/C=1.002～1.2（交通量±10%） 事業費：B/C=1.02～1.1（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.1～1.1（事業期間±20%） </td> </tr> </table>			（事業全体） 交通量：B/C=1.5～1.9（交通量±10%） 事業費：B/C=1.7～1.7（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.7～1.7（事業期間±20%）	（残事業） 交通量：B/C=1.002～1.2（交通量±10%） 事業費：B/C=1.02～1.1（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.1～1.1（事業期間±20%）	
（事業全体） 交通量：B/C=1.5～1.9（交通量±10%） 事業費：B/C=1.7～1.7（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.7～1.7（事業期間±20%）	（残事業） 交通量：B/C=1.002～1.2（交通量±10%） 事業費：B/C=1.02～1.1（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.1～1.1（事業期間±20%）				
事業の効果等					
①北陸新幹線・上越妙高駅と主要観光地間を結ぶ観光ルートとしての機能向上 ・上越地域は豊富な観光資源に恵まれた地域であり、国道8号沿線には観光施設が多く点在している。 ・上越市の観光入込客数は、うみがたり（新水族博物館）開館（H30）などの影響から増加傾向であり、直江津バイパスの整備は地域の観光支援に寄与する。 ②第三次医療施設（新潟県立中央病院）へのアクセス向上 ・上越市大潟区では、救急医療患者搬送先のほぼ全てが上越市街地方面の病院となっている。 ・直江津バイパスの整備により、上越市大潟区から上越地方唯一の第三次医療施設である新潟県立中央病院への走行時間の短縮が見込まれ、迅速な救急医療患者の搬送が期待される。 ③重要港湾直江津港へのアクセス向上 ・直江津港は、外貿コンテナ貨物取扱量が増加傾向であり、環日本海地域の玄関口として重要な役割を担っている。 ・直江津港搬出入貨物の約3割は大潟区、頸城方面であることから、直江津バイパスはアクセス道路として重要な役割を担っており、直江津港を利用した物流効率化による企業の生産性向上が期待される。					
関係する地方公共団体等の意見					
地域から頂いた主な意見： 上越市から早期整備推進の要望を頂いており、特に三ツ屋～下源入間の早期山側3車線化及び犀潟～下荒浜間の早期4車線化に向けた要望を頂いている。					
知事の意見： 県民の安全・安心を確保し、活力のある新潟県を創るため、事業の継続を望みます。本事業は、交通混雑の緩和や交通事故の減少につながるとともに、北陸新幹線・上越妙高駅などの様々な施設へのアクセスが向上され、当県にとって重要な事業と認識しております。今後も早期完成に向けて、コスト縮減に努めつつ、着実な整備をお願いします。					
事業評価監視委員会の意見					
審議の結果、再評価および対応方針（原案）のとおり事業継続することが妥当。					

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

前回再評価時以降、周辺に大きな社会経済情勢等の変化はない。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・事業の進捗状況：用地進捗率66%、事業進捗率64%、(令和3年3月末時点)
- ・残事業の内容：改良工事、電線共同溝工事等

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・三ツ屋～下源入間(1.5km)の山側3車線化については早期完成にむけ工事を推進するとともに、犀潟～下荒浜間については交通状況を勘案し整備を進める。

施設の構造や工法の変更等

- ・建設発生土の有効活用やコンクリート二次製品・長尺製品の活用等によるコスト縮減に努力する。

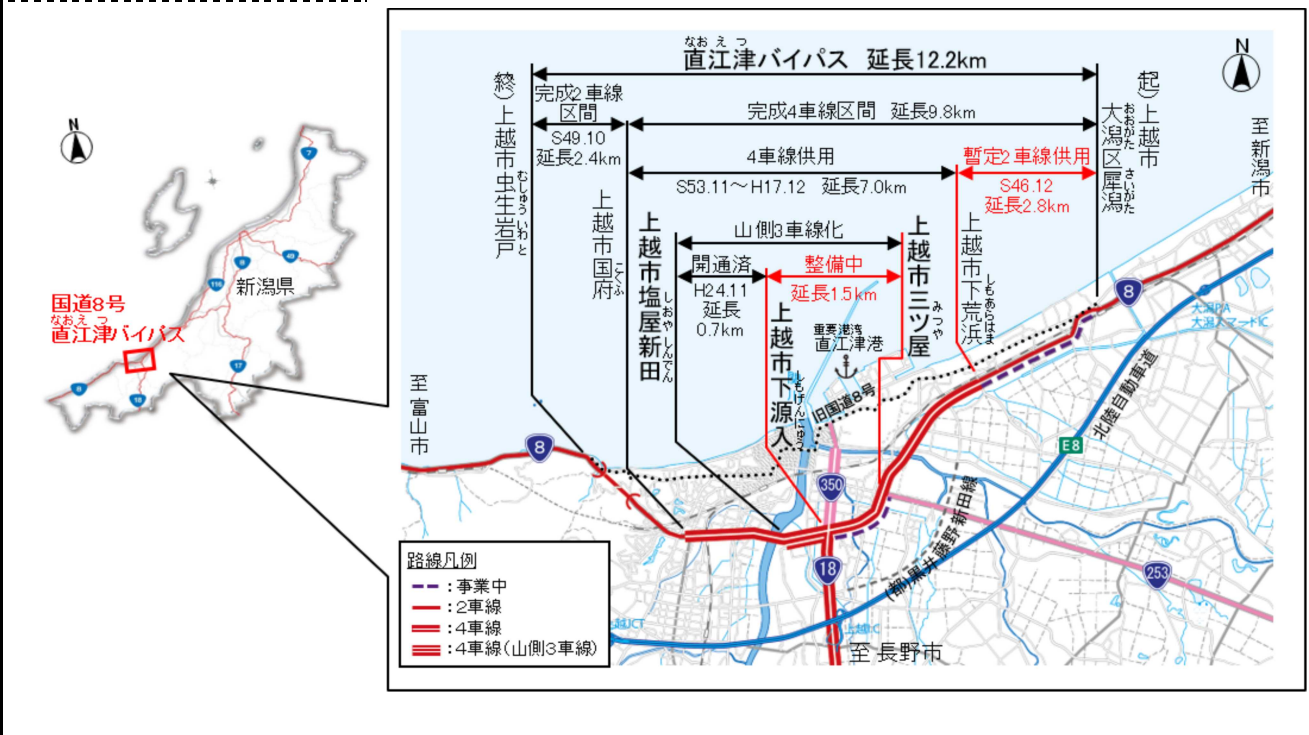
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

当該事業は、現時点においても、その必要性、重要性は変わっておらず、事業進捗の見込みなどからも、引き続き事業を継続することが妥当であると考えます。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。